

2-3 東北地方における地殻変動連続観測 — 傾斜変化, 1984年4月～1989年11月 —

Continuous Observation of Crustal Deformation in the Tohoku District
— Tilt Change for the period from April, 1984 to November, 1989 —

東北大学 理学部

Faculty of Science, Tohoku University

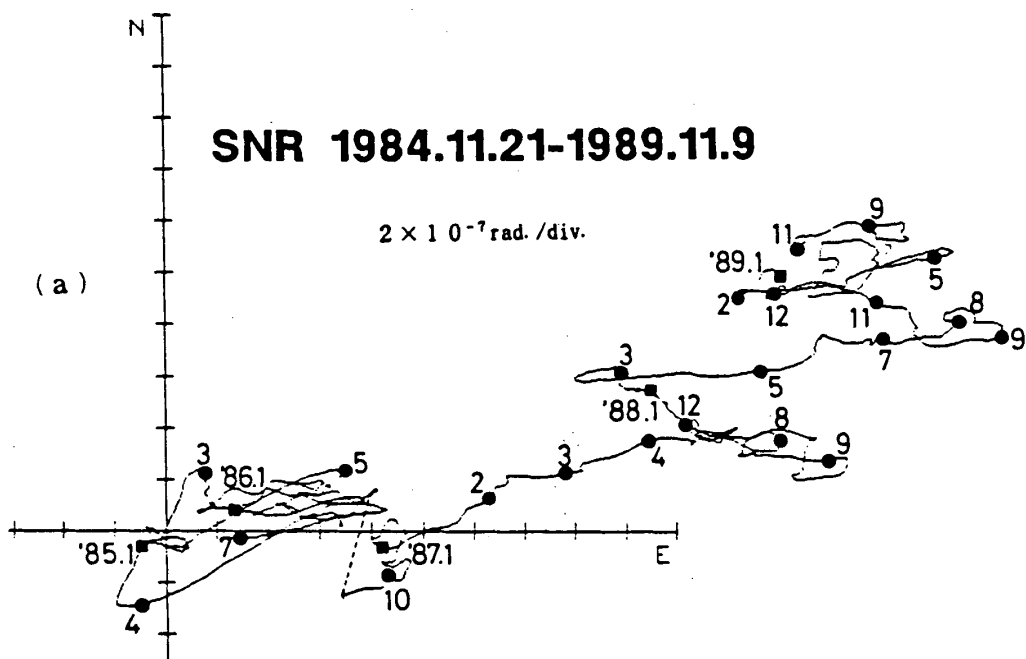
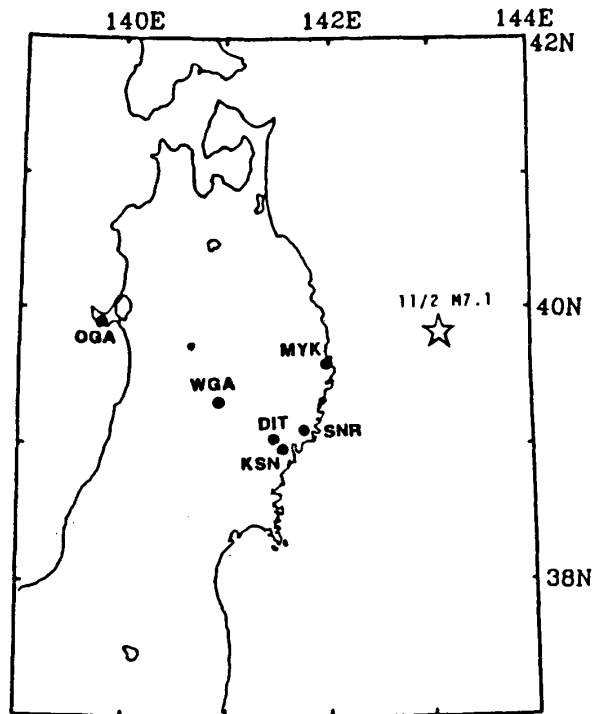
東北大学地殻活動総合観測線の観測所の中から, 太平洋側の観測所を中心に, 水管傾斜計による傾斜観測の結果を報告する。計器長は15～30mである。第1図(a)～(f)には1984年4月から1989年11月までの三陸, 宮古, 気仙沼, 大東, 和賀および男鹿での傾斜ベクトルを示した。データには20日間の移動平均を施してある。挿入図に各観測所の位置と1989年11月2日の三陸沖の地震(M7.1)の震央とを示した。

それぞれの観測所で固有の年周変化を伴いながらゆっくりと傾動しているが, 前述の地震の前後に顕著な異常変動は見られない。

先にも指摘した¹⁾ように, 1988年5月頃より男鹿の傾斜変化に年周以外の傾動が見えてきている。第1図(g)には男鹿での1975年から1989年までの傾斜ベクトルを示したが, ここで指摘している傾斜変化は1983年5月の日本海中部地震(M7.7)の前に見られた傾斜変動に比べれば, はるかに小さいものである。

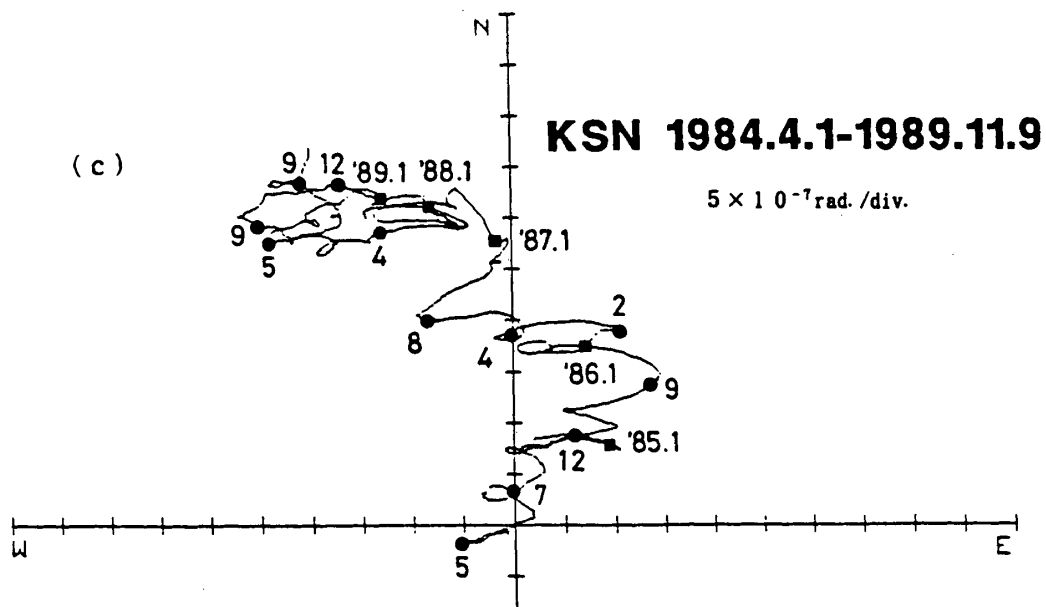
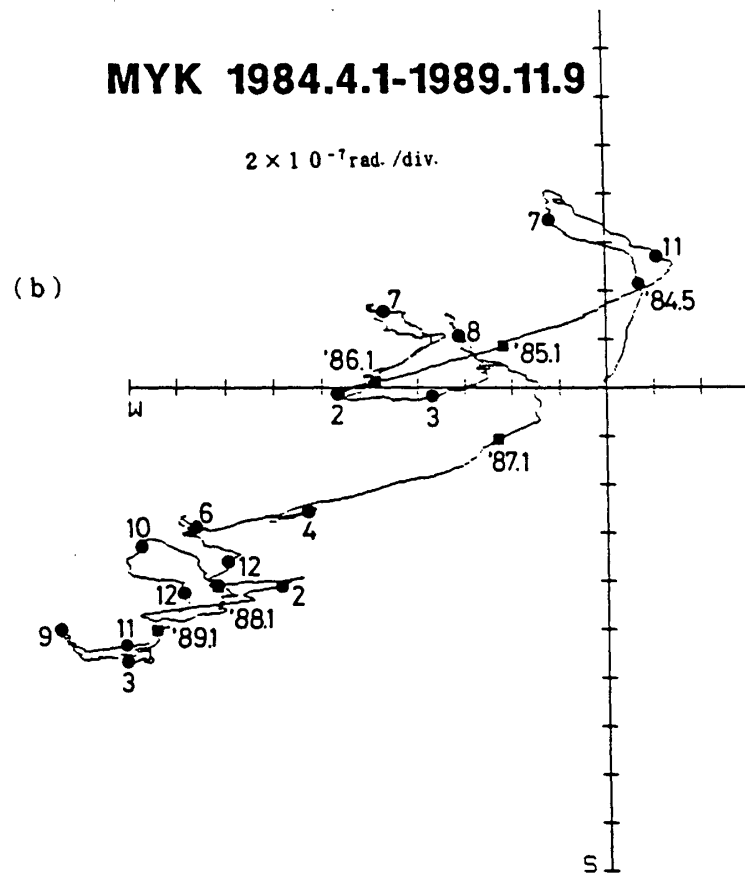
参 考 文 献

- 1) 東北大学理学部: 東北地方における地殻変動連続観測—1984年4月から1989年4月までの傾斜変化及び日本海中部地震に伴った前兆的歪・傾斜変化—, 連絡会報, 42, 53—56.



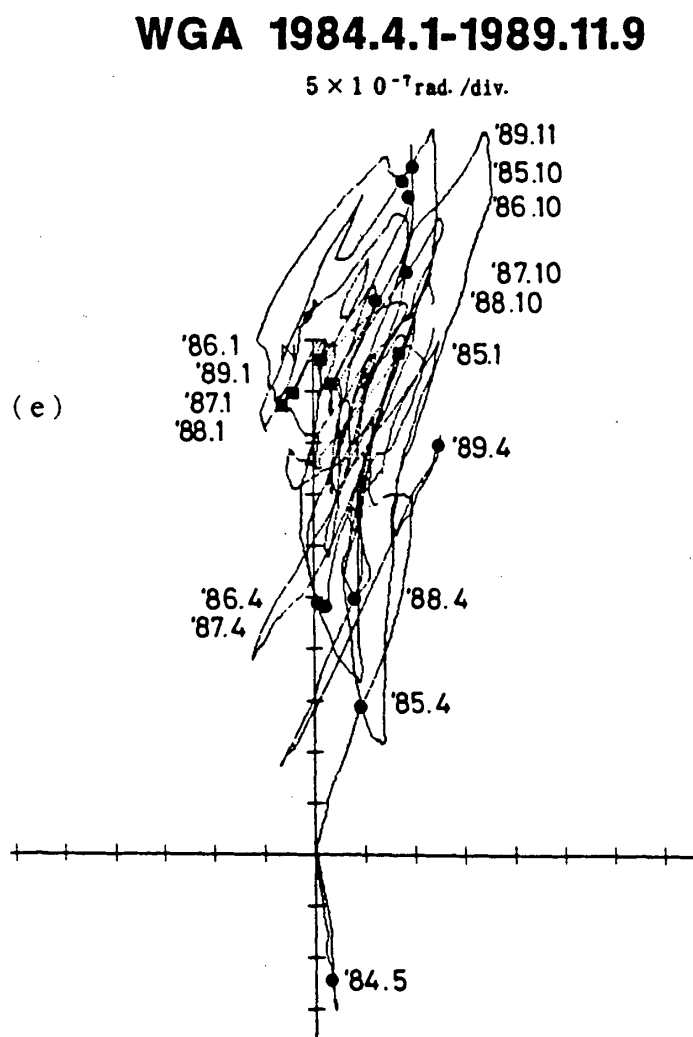
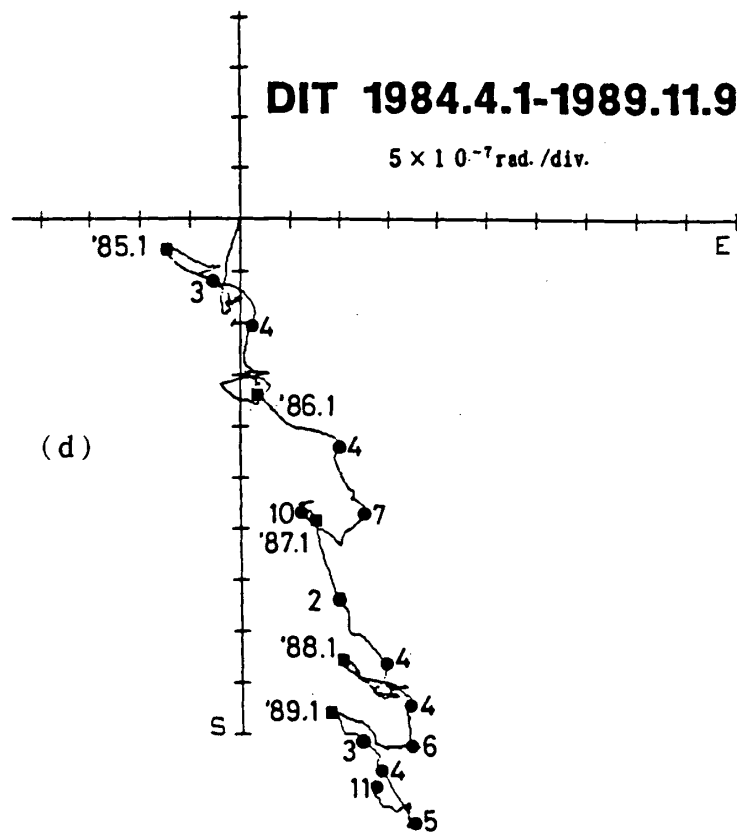
第1図 地殻変動観測所の水管傾斜計により観測された傾斜変化（1984年4月～1989年11月）（a）三陸（SNR）、（b）宮古（MYK）、（c）気仙沼（KSN）、（d）大東（DIT）、（e）和賀（WGA）、（f）男鹿（OGA）、および（g）男鹿での1975年から1989年の傾斜変化

Fig. 1 Tilt Vector plot derived from watertube tiltmeter observation for the period from April, 1984 to November, 1989: (a) SNR, (b) MYK, (c) KSN, (d) DIT, (e) WGA, (f) OGA, and (g) tilt vector change at OGA for the period from 1975 to 1989.



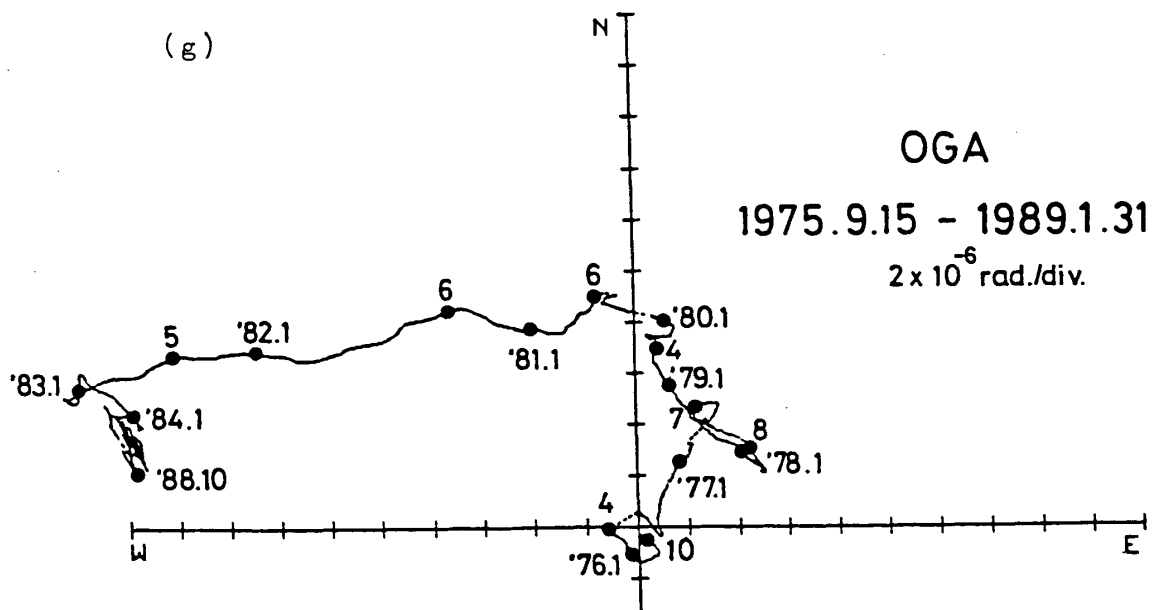
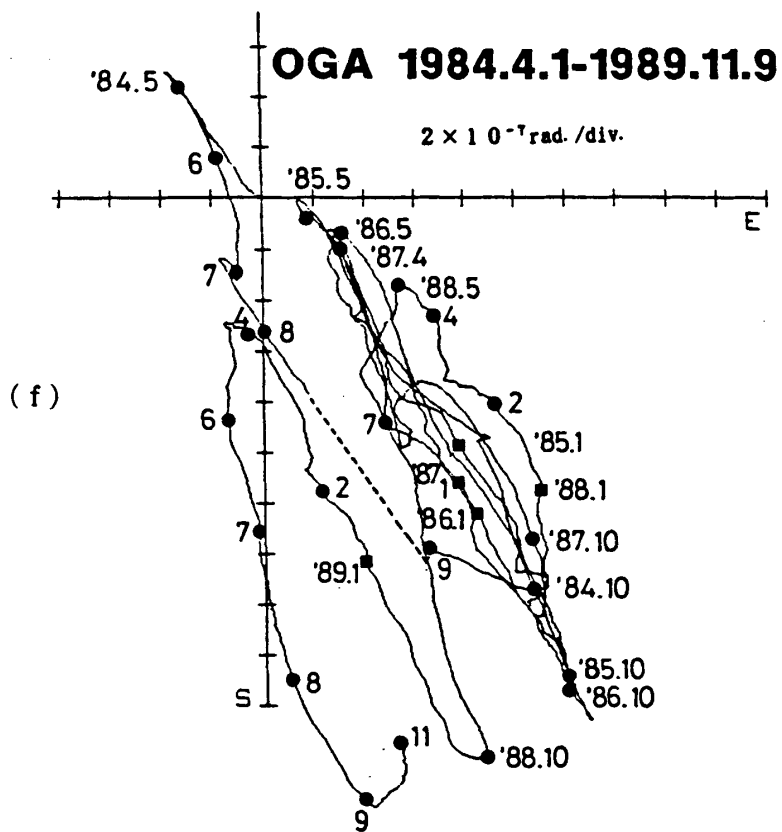
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)